

市長、新春に語る

新春を迎え、希望に満ちた新しい年のスタートとともに、田中俊行市長による2期目の四日市市政がスタートしました。そこで、田中市長に2012年を振り返ってもらうとともに、「元気な産業と輝く文化のまち」を目指して、今後、どのように取り組みを進めていくのか、熱く語っていただきました。

語り手 田中俊行市長

聞き手 市民リポーター 谷口 舞さん



「元気な産業と輝く文化のまち」を

市民とともに進める 市政運営

谷口 市長、明けましておめでとうございます。新年の幕開けとともに、田中市長の2期目の市政の舵取りも始まりましたが、2期目の意気込みをお願いします。

市長 明けましておめでとうございます。1期目では、「決断と実行の市政」をモットーに、子育て支援や教育力の強化、企業誘致や雇用の創出、超高齢社会に対応した医療・福祉の充実、新ごみ処理施設の建設や学校の統廃合、そして何よりも大規模災害への備えなど、山積する懸案課題に全力で取り組んできました。

しかし、まだ道半ばです。今後は、1期目でまいた政策の種が大きく育ち、しっかりと実を結ぶよう、市民の皆様のご協力をいただきながら、市政運営を進めていきたいと思っています。

谷口 その市政運営ですが、今年はどのように進めていこうとお考えですか。

市長 大枠としては、平成23年度からスタートした、「四日市市総合計画」に基づき、3年間(平成23~25年度)で重点的に取り組む「第1次推進計画」事業を中心に、引き続きまちづくりを推進していきます。

併せて、今年は、市民の皆様や職員の政策アイデアも活用しながら、時代の変化や市民ニーズに対応した新たな施策や事業も展開していきたいと考えています。



目指して

自助・共助・公助の コラボレーションによる 防災力の向上

谷口 東日本大震災以降、市民にとって気になるのは、やはり防災対策だと思いますが。

市長 防災対策には、自助、共助、公助のコラボレーションによる防災力の向上が重要です。災害から市民の生命・財産を守ることは行政の最大の使命ですが、行政だけで100%達成することは困難ですので、日ごろから、市民一人ひとりが災害に備えるとともに、地域で共に助け合うことが必要です。

谷口 何か具体的な取り組みは始まっていますか。

市長 昨年、市内29地区にある地区防災組織の連携・ネットワーク化を目的に「四日市市地区防災組織連絡協議会」を設立し、地域防災力の強化に努めています。

また、市としても、地区防災組織が行う各種マニュアル作成や防災訓練の実施、防災資機材の整備などに対して支援しています。

谷口 津波に対する対策もやはり気になりますが。

市長 津波からの避難は「早く、遠く、高く」が原則ですが、どうしても遠くまで避難ができない人に、少しでも安全な高い場所を確保するため「津波避難ビル」の指定を引き続き行っていきます。

また、一昨年に全戸配布した「津波避難マップ(暫定版)」を改訂し、「津波避難マップ(確定版)」を作成して全戸配布します。この「津波避難マップ」を参考に、家族で避難場所や避難ルートの再確認をしていただきたいと思います。

谷口 迅速に避難するには、情報伝達も重要ですよね。

市長 「防災行政無線」「あんしん・防災ねっと」「エリアメール」など、さまざまな方法で市民の皆さんに情報伝達していきます。

昨年からは、老朽化した「防災行政無線」の更新に着手していますし、また、新しい情報伝達システムとして「緊急告知ラジオ(自動で電源が入り、最大音量で情報を伝えるラジオ)」を導入し、災害時要援護者の方々やその支援者となる自治会長、民生委員の皆様などに広く活用していただきたいと思います。

住み慣れた地域で 安心して暮らせるために

谷口 本格的な高齢社会を迎え、医療や福祉の分野も気になります。

市長 市立四日市病院は、築後30年以上経過し、老朽化しているため、平成22年4月から病棟の増築、既設部分の改修工事に着手しています。この工事により、入院患者の療養環境が大幅に改善されますが、さらに救命救急医療や周産期医療の充実を図っていきます。



昨年2月には、北勢地域で初めて、市立病院内に母体・胎児診断センターを開設しました。最新鋭の高度な超音波(エコー)診断装置で診断し、疾病が見つければ、早期治療を行い、胎児・新生児の救命率が高まります。

今後も、安全に安心して妊娠出産できる体制の整備に努めるとともに、救急隊員の医療に関する知識と技術の修得、ひいては救命率の向上のため、病院内への「救急ワークステーション」の設置も検討しています。

谷口 市立四日市病院の機能が充実すれば、安心してですね。福祉の分野はいかがですか。

市長 昨年9月から、精神障害者の方々の保健の向上と福祉の増進を図るため、障害者医療費助成の拡大を市単独で行っています。

また、高齢社会を迎え、住みなれた地域で安心して生

活するには、在宅医療・在宅福祉が重要になります。

そのため、医療と介護、病院と診療所の連携、訪問看護ステーションの整備などに努めるとともに、認知症グループホームなど、高齢者福祉施設の整備に対して、支援していきます。

子どもたちの問題解決能力と豊かな人間性を育む

谷口 私たちの世代は、特に子育てや教育の分野に関心があります。

市長 子育て支援策の一環として、一昨年9月から子ども医療費助成の対象年齢を小学校6年生まで拡大しましたが、さらなる支援の充実を図っていきます。

また、学童保育所の整備・運営に対する支援を拡充し、全校区への設置を推進するとともに、児童発達支援センター「あけぼの学園」の機能の充実にも努めます。

さらに、4月からは、「(仮称)こども未来部」を新設して、子育てに関する施策を総合的に一貫して推進していきます。

谷口 子育て支援策が充実するのは、親として本当にありがたいですね。教育の分野はいかがですか。

市長 一昨年4月から、「中1ギャップ(※)」の解消や基礎学力・基本的な生活習慣の定着のため、中学1年生の30人学級を本市独自で実施しています。子どもと先生が向き合う時間に余裕が生まれ、気持ち不安定になりがちな思春期の子どもにとって、とても良い効果が期待できます。さらに4月からは、小学校1年生の30人学級を下限なしで実施したいと考えています。



トッキーの
ワンポイント
情報 ①

市立四日市病院の病棟増築・既設改修工事

昨年5月に完成した増築棟には、病室(4人床および個室)、東海地区初のハイブリッド手術室(※)(1室)を含む手術室(12室)、新生児集中治療室(NICU)などを配置しています。平成25年度中には、既設改修工事を含め、全ての工事を完了する予定です。

※ハイブリッド手術室…カテーテル手術などの内科的手術と、開腹手術などの外科手術の機能を併せ持つ手術室で、緊急時への対応が迅速に行えるため、救命率の向上につながる



ハイブリッド手術室

谷口 最近、子どもたちの「科学技術離れ」「理科離れ」も指摘されています。

市長 産業都市である本市は、科学的な技術を持つさまざまな企業が存在します。そんな恵まれた環境を生かして、企業と連携した理科教育を推進してきましたが、さらに科学の体験の機会を充実させることが必要と考えています。

そこで、宇宙航空研究開発機構(JAXA)の協力も得て、昨年夏休みに初めて開催した「四日市子ども科学セミナー」を、今後も毎年開催する予定です。

※中1ギャップ…中学校に入学して、新しい学校生活や学習の変化になじめず、不登校やいじめが増加する問題

地域経済・産業の 活性化に向けた支援

谷口 産業都市として、経済・産業の活性化は欠かせないものですね。

市長 本市は、多くのものづくり企業が集積する産業都市であり、今後も持続的な経営を続けていただくために、操業環境の改善や事業の高度化への支援に一層力を入れていきます。

昨年、国内最大規模で紙おむつの材料を生産しているサンレックス工業(株)の新ラインが竣工しましたが、このような新たな設備投資や企業誘致の促進にも積極的に取り組んでいきます。また、企業のニーズを把握して、効果的な企業支援を行うため「(仮称)産業活性化戦略会議」の創設を考えています。

谷口 中小企業への支援も大切ですね。



市長 以前から、中小企業の新商品・新技術の開発などを支援していますが、昨年は、新たに住宅リフォームの補助制度と海外販路開拓の補助制度を創設し、地域経済の活性化や産業支援に努めました。

谷口 中心市街地の活性化も重要ですね。

市長 中心市街地ににぎわいを取り戻すため、策定から10年以上経過した「中心市街地活性化基本計画」の見直しを進めています。

昨年は、近鉄四日市駅東口広場に、公共施設や観光施設などの案内看板を設置しましたが、今年は、北口の「ふれあいモール」から一番街への歩行者空間をリニューアルします。また、JR四日市駅へのエレベーター設置などに取り組むとともに、中心市街地を活性化する起爆剤となる事業を模索していきたいと思っています。



JAXAとの協定締結

JAXAには、以前から、プラネタリウムの宇宙講座などにご協力いただいていたことが、JAXA宇宙教育センター副理事長の樋口清司さんが本市出身でもあることから、昨年10月に、県内では初めて、宇宙教育活動に関する協定を締結しました。今後は、JAXA職員による小・中学校での出前授業や、「四日市子ども科学セミナー」「宇宙教育指導者セミナー」などへの講師派遣などにも協力していただきます。



JAXAとの協定締結式

過去の貴重な教訓を踏まえ 未来に豊かな環境を 引き継ぐために

谷口 昨年は、四日市公害裁判の判決から40年、四日市にとって、とても重要な年だったと思いますが。

市長 昨年7月29日には、「公害裁判判決40周年の集い」を開催しましたが、原告・企業・行政が一堂に会したパネルディスカッションを実施したり、原告の一人であり、長年にわたって語り部として活動いただいている野田之一さんに感謝状を贈呈したり、非常に有意義な集いとなりました。

また、公害の歴史や教訓を忘れず、市民・企業・行政が一体となって取り組んできた環境改善やまちづくりの歩み、さらには蓄積された知識や技術、経験などを広く情報発信する拠点として、「(仮称)四日市公害と環境未来館」を博物館内に整備し、平成26年度中の開館を目指します。

谷口 環境保全に向けた取り組みは、どのようなものがありますか。

市長 小学校では、企業の社員を講師に迎え、CO₂削減を目的とした授業を行って、家庭での実践を促す「こどもよっかいちCO₂ダイエット作戦」を実施しています。

また、家庭や中小企業向けに、太陽光発電・LED照明などの新エネルギー設備や省エネルギー設備の導入費用の一部を補助しています。

一方、平成28年4月の稼働を目標に、老朽化が進む北部清掃工場に代わる「新総合ごみ処理施設」の建設を進めるとともに、合併浄化槽の法定点検の実施率を

上げて公共水域の水質浄化を図るため、新たな補助制度の創設を検討中です。

文化力の創造と 育成、情報発信

谷口 昨年、市長は「四日市の文化力元年」を宣言されましたよね。

市長 四日市は、「コンビナートと工場のまち」というイメージが全国的に定着しているので、私は、産業と文化が調和した、魅力的で風格のあるまちづくりが必要と考え、「四日市の文化力元年」を宣言しました。

その文化振興の一環として、昨年10月に、「家族」と「絆」をテーマにした「第1回全国ファミリー音楽コンクールinよっかいち」を文化会館で開催しました。今年も継続して開催し、四日市の文化力を全国にアピールしていきたいと思っています。

谷口 なるほど、夢が膨らみますね。他には、どのような取り組みを予定していますか。

市長 今月19日には、「第2回郷土が誇る芸能大会」を文化会館で開催します。市内各地区で大切に継承されている伝統芸能・郷土芸能にふれることで、郷土に対する「誇り」や「愛着」を高め、地域の「絆」を強くしていただければと思います。

さらに、次代を担う子どもたちのために、プロのアーティストや交響楽団の演奏を鑑賞したり、楽器に直接触れられる機会を提供する「学び舎音楽会」を、小・中学校で開催していきます。

今年、開館20周年を迎える博物館については、「(仮



トッキーの
ワンポイント
情報 ③

新総合ごみ処理施設の整備

現在、整備を進めている「新総合ごみ処理施設」が稼働すると、ごみ処理の流れが大きく変わります。これまで埋め立てていたプラスチックごみも焼却し、併せて、不燃ごみや粗大ごみは破碎処理することで、埋め立て処分するごみはほとんどなくなります。

そのことで、南部埋立処分場が大幅に延命化されるとともに、ごみ出しの利便性も大きく向上します。また、ごみの焼却により生じる熱エネルギーを回収して発電も行います。



完成予想図



トッキーの
ワンポイント
情報 4

「全国ファミリー音楽コンクール」の開催

「第1回全国ファミリー音楽コンクールinよっかいち」には、北は北海道から南は鹿児島県まで93組の応募がありました。当日は、予選を通過した16組が「家族」ならではの心温まる演奏や魅力あふれるパフォーマンスを披露して、素晴らしい音楽コンクールになりました。

毎年、継続して開催することで、近い将来、「四日市のファミコン」として、全国屈指の音楽コンクールに育て上げていきたいと考えています。



グランプリに輝いた「ミマリッチ@mo.」jp

称)四日市公害と環境未来館」の整備と併せて、常設展示とプラネタリウムのリニューアルを行い、魅力的な総合博物館としての整備に着手します。また、市として初めて、国の史跡の指定を受けた「久留倍官衙遺跡」を活用した公園整備も進めていきます。

地域資源を生かした 魅力の創出、情報発信

谷口 市長は、以前から観光にも力を入れていますよね。

市長 観光は、集客と交流による経済波及効果のみならず、本市のイメージアップにもつながります。去年は、「観光戦略会議」から提案された「観光戦略プロジェクト」に基づき、地域資源を生かした魅力を創出し、情報発信する事業に取り組みました。

谷口 具体的には、どのような取り組みですか。

市長 例えば、萬古焼の土鍋と地元の食材を組み合わせた鍋料理を食べてもらう「土鍋deごはん」プロジェクトを実施したり、近鉄四日市駅1階にある観光案内所をリニューアルして、訪れた人を水沢茶でもてなす「お休み処四十三茶屋」を開設したり、いくつかの事業をスタートしました。

もちろん、県外の人にも大好評を博している「コンビニナートの夜景クルーズ」やB級グルメのとんてきなど、新しい地域資源も有効に活用しながら観光振興に努めていきます。

また、お茶や萬古焼などの地場産品をブランド化し、首都圏の商店街などのアンテナショップへの展開や、イベントによるPR・販路開拓にも、引き続き力を入れていきます。

スポーツによる 元気なまちづくり

谷口 スポーツでの市民の活躍も目立ちますね。

市長 サッカーやテニスなど、高校生の全国大会での活躍は、素晴らしいものがありますね。

平成33年に三重県で国体の開催が予定されているので、競技種目の誘致や、それに伴う施設整備を進めるとともに、トップアスリートによるスポーツ教室を開催するなど、競技力の向上や生涯スポーツの振興によって、元気なまちづくりを進めていきます。

新しい魅力を創造し、 「元気な産業と輝く文化のまち」へ

谷口 市長が行っているさまざまな取り組みは、私たちの四日市に対する誇りにつながりますね。

市長 「みんなが誇りを持てるまち、四日市」を目指して、現在取り組んでいる政策や施策をさらに進化させ、その成果を生み出すことが、私に課せられた大きな使命だと考えています。

そのために、豊かな市民生活を支える産業の活力を強化するとともに、文化や観光、スポーツなどの分野で、四日市のシンボルとなる新しい魅力を創造し、「元気な産業と輝く文化のまち」を実現していきます。

市民の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。